

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あんみアフタースクール		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 15日		R7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 18 (69%)
○従業者評価実施期間	R7年 1月 15日		R7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小学校1年生～高校3年生までの児童が同じ空間で活動している。幅広い年代との触れ合いで、コミュニケーションを磨くことが出来る。	支援員が間に入り、児童同士の関りをサポートしている。 絵カードなどの視覚的療育道具を使い分かりやすくコミュニケーションを図っている。	職員研修や外部研修に参加し、職員のレベルアップを図っていく。
2	豊富な集団プログラムを実施している。	児童の発達段階に合わせて、体力づくり、読書/読み聞かせ、ソーシャルスキルトレーニングなど様々な活動を提供している。また、集団プログラムの療育計画を細かく立て児童一人一人の目標と目的を明確化している。	同じプログラムばかりにならないように、様々なアイデアを出し合い、新しい取り組みを実施していく。児童が楽しんで参加出来るように、遊びの要素も織り交ぜていく。
3	サービス提供日が多い。平日、土曜日、祝日、学校休業日も朝から利用可能。	一日のスケジュールを説明し、見通しを持って活動できるようにしている。一日を通して繰り返し療育プログラムを受けられる。 土曜日、祝日には、課外活動やクッキングを実施し公共の施設でのマナーや食育について学んでいる。	保護者と連携を図り、事業所での様子や活動など共有していく。 保護者・児童のニーズにあった支援を提供できるように寄り添っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流(地域住民、他の放デイ)の実施がない。	数年間コロナ禍だったこともあり、地域との交流が極端に少なかった。近くの福祉施設のお祭りなどには数回参加出来た。	次年度に向けて、地域交流が出来るイベントのリサーチを行い積極的に参加していく。 夏祭りなどのイベントを企画し地域住民の方を招待することも検討していく。
2	訓練室が二階にある。	二階に訓練室があるため、歩行サポートが必要な児童が階段の上り下りに転倒等のリスクがある。 災害・緊急時の避難の際に階段移動に時間がかかってしまう。	一階に訓練室がある建物に移転を検討している。 避難経路や方法など都度避難訓練で確認していく。